

いのちの葉

いのち大悲に生かされて

柳川
眞諦

目次

「いのち」輝く世界……………	卯月 …… 4
「いのち」に会う……………	隼月 …… 9
「いのち」ただ委ねて ……	水無月 …… 14
「いのち」の物語……………	葉月 …… 19
「いのち」の記憶……………	長月 …… 24
「いのち」の約束……………	神無月 …… 29
「いのち」の意味……………	霜月 …… 34
「いのち」の旅……………	睦月 …… 39
「いのち」を抱くもの……………	如月 …… 44
「いのち」大悲に生かされて……………	弥生 …… 48

「いのち」輝く世界

卯月うづき

今、私の中には如来さまがいる。とってもやさしいひと。

前から、いらっしやっただらうけど、気付くことがなかった。

よくよく気付いてみると、とってもやさしいひと。

こんな私を救うてくださる。

伊藤嘉祐著『太陽とひまわり』

心に残る桜

今年も桜の季節となりました。桜は日本人にとって心の琴線きんせんに触れる特別な

花です。今、あでやかに咲いている桜はもちろん、去年の桜ではありません。

しかし、その「いのち」の輝きの中に私たちはたくさんさんの記憶を刻んできたのではないのでしょうか。

皆さんは、誰と見た、どんな桜が心に残っていますか？

二〇一三(平成二十五)年の今頃、家族ぐるみのお付き合いしてきた京都の仏具屋さんが、久しぶりにお寺へ仕事に來られた時のことです。結婚した時期も、子どもを授かった時期も同じで、うちは息子が二人であちらはお嬢さんが二人。「どちらかお嫁さんに来てくれたらいいね」なんて、お酒を飲みながら、親同士で勝手に盛り上がったこともありました。

その彼が、帰り際に突然、「いのちの期限」を告げたのです。すでに、がん

は全身に転移し、手術も不可能で余命は半年とのことでした。

でも、彼はまるで嘘のように、穏やかな表情でほほ笑んでいました。

そして、

「今、世界は優しさと輝きに満ちている。たくさんの人に感謝され、優しくされて、人生の中でこの半年が一番穏やかで、喜びに満ちていた。百年生きても、こんな世界を見られないかもしれない。だから、今、半年という時間をもらって感謝しているんだ……」

と言いました。

あの時、彼の目にはどんな桜が見えていたのでしょうか。

光り輝く「いのち」

仏教では「生死一如」と言いますが、自分の命の終わりが見えた時、阿弥陀如来の大慈悲の世界に出遇った人は、こんなにも強くなれるのか。驚嘆せずにはいられないほど、彼は光り輝く「いのち」を精いっぱい生き切りました。

彼が最後に言っていたのは、まだ幼い娘たちに父親の生きざまを見せること。幸せな顔で、満ち足りた顔で、死んでいく……。

その言葉どおり、彼の遺影は門徒総代の式章をして、いつもの人なつつこい笑顔で、幸せに満ちた顔でほほ笑んでいました。

「カッ」良すぎるとか」

私は思わず泣きました。